



1 3
1917
2



イ 3
1917
2

中華事始卷之二月録

歲時門 第三

甲子

歲二

閏三

月朔

元日慶賀

人月六

十日食粥

穀奠八

上巳九

曲水宴十

端午

競渡十二

伏日十三

七夕十四

中秋賞月

重陽十六

冬至十七

臘日十八

土牛十九

驅難二十

正五九月

居處門 第四

昭和十九年
三月二日
小田幸吉
吉田友太
即此室の
圖書印

宮 九二

殿 九三

堂 九四

宅 九五

廟 九六

生祠 九七

樓 九八

閣 九九

齋 三十

廊 三十一

屋 九二

廚 九三

庫 九四

倉 九五

亭 九六

臺榭 九七

門 九八

獄 九九

厠 一〇〇

階 一〇一

牆 一〇二

庭 一〇三

藩籬 一〇四

橋 一〇五

浮橋 一〇六

鵲吻 一〇七

廐 一〇八

行馬 一〇九

衣服門

第五 布帛采色附

冠 五十

冕 五十一

弁 五十二

簪 五十三

纓 六十四

頸巾 六十五

衣裳 六十六

袞衣 六十七

被 六十八

褌 六十九

雨衣 七十

蓑衣 七十一

腰帶 七十二

袴 七十三

魚袋 七十四

笏 七十五

鞞 六十六

履舄 六十七

屨 六十八

屐 六十九

纁 七十

附布帛 七十一

錦 七十二

繡 七十三

纁 七十四

五采 七十五

官位門第六

爵 七十六

官 七十七

品秩 七十八

諸侯 七十九

列牧 八十

大守 八十一

三公 八十二

左右相 八十三

宰相八十日 大將軍八十八 將軍八十六 諫官八十七

致仕八十八

中華事始卷之二目錄終

中華事始卷之二

歲時門 第三

甲子一

世むよえ。大撓甲子と造る。呂氏春秋よ曰。黃

帝大撓と師と。多。黃帝内傳よえ。帝とて

小蚩尤をきり。大撓よ命して甲子を造る

めて時を正し。多。月令章句よ曰。大撓五行

の情をさぐり。斗制れ指所と云。くよあめて。

始て甲しと化て以て日よ名を造る。多。と幹

も云子世を化て月^{ツキ}は名^ナはく。あれと枝^エと云。
 枝^エ幹^{カン}お配^{ハヅレ}して以^{モッ}く六^{リク}旬^{ジュン}をあら^ル。事物紀原^{ジキケン}〇是
 ハ支^シ干^{カン}ハ英^{エイ}帝^{テイ}。古^コ今^{キン}原^{ゲン}始^シヨ日^{ニチ}。天^{テン}皇^{クウ}氏^シ十^{ジュ}干^{カン}と以^{モッ}く
 衆^{シュ}と云^フめ。十二^{ジュニ}支^シを以^{モッ}て時^{トキ}代^{ダイ}をせ。好^コ古^コ衆^{シュ}をあら^ル。
 二^ニ枝^シ十^{ジュ}幹^{カン}ヨ干^{カン}支^シの字^ジ成^{セイ}
 月^{グハツ}にハ他^タとあり。

歳ニ

英^{エイ}帝^{テイ}星^{セイ}曆^{レキ}と云^フめ。周^{シュ}師^シを以^{モッ}て衆^{シュ}と云^フめ
 〇。堯^{ギョウ}ヨ以^{モッ}て。日^{ニチ}時^{トキ}と云^フて歳^{サイ}と云^フせり。事物紀原^{ジキケン}

閏ニ

史^シ記^キよ云^フ。英^{エイ}帝^{テイ}消^{セウ}息^{ソク}氏^シ起^キ。周^{シュ}師^シを以^{モッ}て衆^{シュ}と云^フめ。則^{ソク}宣^{ケン}ハ
 年^{ネン}分^{ブン}の月^{グハツ}也^ヤ。英^{エイ}帝^{テイ}曆^{レキ}と云^フて。始^シて以^{モッ}てと云^フせり。
 事物紀原^{ジキケン}〇書^{ショ}經^{キョウ}の堯^{ギョウ}典^{テン}ヨ。宣^{ケン}月^{グハツ}定^{テイ}四^シ時^ジ成^{セイ}衆^{シュ}
 とあり。堯^{ギョウ}ハ以^{モッ}てと云^フて。これを始^シと云^フすべし。

月朔

四 朔ハ十五 日のヨ也

通^{ツウ}曆^{レキ}ヨ以^{モッ}く。地^チ皇^{クウ}氏^シ昼^{ジュウ}夜^ヤと云^フく。三十^{サンジュウ}日^{ニチ}と以^{モッ}て
 月^{グハツ}朔^{ソク}と云^フ。事^ジ紀^キ原^{ゲン}古^コ今^{キン}原^{ゲン}始^シヨ云^フ。地^チ皇^{クウ}氏^シ朔^{ソク}と云^フ。
 三十^{サンジュウ}日^{ニチ}と以^{モッ}く。一^{イチ}月^{グハツ}と云^フ。十二^{ジュニ}月^{グハツ}と以^{モッ}て一^{イチ}衆^{シュ}と
 云^フ。是^{コノ}朔^{ソク}也^ヤの始^シ也^ヤ。

元日賀王

人月六

ハレ
アキ
ラカ
ニ
ア
タ
カ
ヤ
セ
イ
メ
イ
ラ
ン
ク
ハ

疾レツ病ヘイ名スイ
ワッラヒジョー
れハ
名

禽獸 トリノケモノ

信ずるべ。

十五日食粥七

續齊諧記云。吳縣の張某と云もの。夜起て一
ぬ人の宅に東南の角に三つ。少頃挙て張某を振
くと見れば。張某則ち死す。婦人の曰。此地ハ乞
某が家の蠶室なり。ふこゝに我々を乞ひ地也。祔也。
明年正月。白粥と化り膏と上より。うて我
と桑と。ふ某の蠶桑を。て百倍あり。

ひへ。といひ。終てうせぬ。張某その云れ如く。あ
て。膏粥と化てそれと桑と。ふ。そのうたふ
蠶桑の利とぬきり。今正月。白膏粥と化
り。そ。う。ふ。また世に記ふ。正月十二日
小豆粥と煮て天狗を。中。に桑と。ぬ。そ
と。粥とそれ。う。粥。敷。時。東方。白。ひ。再。ぬ。出
跪てそれと服。ふ。年。中。疫。氣。あり。なり。
續齊諧記。世に記ふ。佐。延。あり。て。佐。ず。あり
そ。玉。燭。宝。典。云。正月。十二。日。膏。粥。と。化。く

り門戸をあるとあるせり。又荊楚歲時記あり。
 正月十日巨糜と云りて。油膏と云のとよく
 入。門戸とあると云り。月令あり。孟春は
 戸とあるといふ。傳は。是か人授ふといふ。

秋奠ハ

經世格要云。隋の制。國子學。毎季四仲
 月二月八月と下代日。先聖孔子先師顔子と秋奠と。別
 縣乃學。則春秋の二仲月といふ。と。經云。これ
 春秋二仲月秋奠也。月令廣義

上巳草餅九

周の幽王の時。成人草餅とけりて。幽王はもろ。
 幽王その味。其を家事を感じて。この餅。孫わ
 かり。宗廟は秋せは。周の世大は。後。西は。平と
 改べ。といふ。後人いふ。と。お傳て。二月三日は
 草餅とけり。祖考と云。草餅のあり。是
 り。錦繡萬花各
 此伝。これ。出。本。と。云。は。こ。と。に。幽王ハ
 暴君とて。その政を。い。つ。す。周乃世也

王楚人^{ソノミト}とわかれ^ミて^ミげ日^{コト}小^ミなる^ミ毎^ミ日^ミ竹^ミ簡^ミの
 中^ミに^ミ朱^ミ氏^ミ野^ミへ^ミの^ミ日^ミ授^ミして^ミこれ^ミと^ミある^ミ。僕^ミ武^ミ
 帝^ミの時^ミ長^ミ沙^ミ水^ミ歐^ミ回^ミと^ミえ^ミもの^ミ海^ミ濱^ミと^ミとり^ミに^ミ
 一^ミ人^ミ事^ミり^ミて^ミ之^ミ周^ミを^ミ更^ミと^ミ名^ミを^ミあり^ミ。回^ミは^ミ謂^ミて^ミい^ミと^ミ。我^ミ
 毎^ミ年^ミ祭^ミる^ミ。然^ミく^ミも^ミ志^ミを^ミ悦^ミぶ^ミ。臨^ミし^ミり^ミ。然^ミに^ミ夢^ミに^ミ
 授^ミけ^ミる^ミ。其^ミの^ミ食^ミを^ミ和^ミみ^ミぬ^ミと^ミ傳^ミふ^ミ。今^ミより^ミ
 後^ミハ^ミ棟^ミ樹^ミの^ミ影^ミを^ミ以^ミて^ミう^ミの^ミと^ミを^ミし^ミみ^ミ。又^ミ文^ミを^ミ
 系^ミる^ミく^ミ結^ミへ^ミ。これ^ミ二^ミ物^ミを^ミ。授^ミけ^ミる^ミの^ミむ^ミり^ミ而^ミ
 也^ミと^ミし^ミり^ミ。今^ミ目^ミ標^ミと^ミう^ミる^ミ。是^ミより^ミ起^ミる^ミと^ミて^ミ。漢^ミの^ミ

月^ミ令^ミ廣^ミ義^ミハ^ミ屈^ミ原^ミが^ミ婦^ミ。婦^ミは^ミこれ^ミと^ミし^ミり^ミと^ミ
 屈^ミ原^ミを^ミ吊^ミひ^ミけ^ミる^ミ。一^ミと^ミし^ミり^ミ。され^ミた^ミた^ミの^ミ
 二^ミ夜^ミの^ミの^ミく^ミ。高^ミ延^ミたり^ミ。伝^ミ用^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミ
 周^ミを^ミか^ミ目^ミを^ミ元^ミに^ミハ^ミ一^ミの^ミハ^ミ。蔬^ミ菜^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミ稻^ミ米^ミと^ミて^ミ
 一^ミ。灰^ミ汁^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミ煮^ミて^ミ糲^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミ陰^ミ陽^ミ包^ミ裏^ミ
 一^ミ。未^ミ分^ミを^ミ更^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミ
 一^ミ。元^ミ一^ミ。陰^ミ陽^ミ包^ミ裏^ミ一^ミ。包^ミ裏^ミ一^ミ。陰^ミ陽^ミ包^ミ裏^ミ一^ミ。
 楚^ミの^ミ傳^ミ。越^ミ王^ミ勾^ミ踐^ミと^ミし^ミり^ミと^ミて^ミ起^ミる^ミ。新^ミ楚^ミ歲^ミ時^ミ紀^ミ

競渡

十二

云。八月。日。屬。尔。同。死。又。按。ず。人。其。死。を。傳。て。並。
又。舟。楫。と。て。之。れ。を。と。り。用。て。以。て。俗。と。し。る。
歲。華。紀。曆。の。云。句。踐。の。よ。う。く。數。月。と。し。り。而。尔。
と。極。て。俗。と。れ。然。る。事。を。紀。承。下。曰。

伏日 十二

史記。秦。德。二。年。初。く。伏。して。以。て。以。て。盡。と。ふ。せ。
ぐ。至。康。う。云。六。月。伏。日。也。周。の。時。と。へ。な。す。秦。の。
至。て。あ。る。り。六。月。三。伏。日。
の。事。あり。

七夕 十に

桂陽城の武丁と云ふもの。仇術あり。その事。は。綱。て。云。

七月七日。織女。南。よ。天。河。と。海。と。へ。一。才。同。て。い。う。く。

織女。何。の。り。あり。河。代。海。の。終。て。曰。織。女。と。し。る。事。

牛。に。む。る。漢。の。時。に。世。人。今。も。む。る。事。て。織。女。牽。牛。に。

嫁。と。し。云。續。齊。傳。に。

五雜組。凡。織。女。牽。牛。の。事。斎。祭。に。其。始。り。武。

丁。の。事。と。云。む。り。あり。博。物。志。の。案。槓。の。儀。說。

よ。ま。り。り。然。る。は。子。歲。乃。及。婦。人。女。子。也。傳。て。曰。

実。と。い。ふ。可。也。文。人。墨。士。習。て。書。後。と。し。

天と此列宿とて横に河漢の如く波ひ流るや。此の基きとあるを。孫の確論と云へ

中秋賞月 十又

此和月夜玩る。李唐の世より盛なり。文人も詠みたり。古樂府の如く悲のあり。漢人の中秋此月なれり。てけと作ると何れに。漢の世よりあるや。林羅山

重陽 十六

汝南の桓景と云ふ。費長房は随て久し。九月九日。桓景が家へ。緋囊とぬひて。中。菜羹ととり。酒と。菊酒とのま。此災消すべし。桓景その云と信じて。代々くせし。身は長く。て家中に難。平。死。る。房。れ。と。あ。れ。命。よ。う。れ。と。り。後漢の時。世の人。九日は。ぬ。り。や。る。酒。と。ぬ。人。菜羹と。酒。と。

此後虚あなり。佐とく人又難組よ。九日菜

蔓^ユを^ヲ佩^シく^{ラヒ}多^タく^タも^モや^ヤる^ルも^モ菊^{キク}花^ハ源^{ゲン}と^トの^ノむ^ム事^{コト}。お^オ傳^{デン}く^ク

費長房植京りかに穴サク匠ジツ術ユヰとありといてそ

の来由ライユウと云ふ。されど西京雜記サイケイザツキに。咸安人センアンジンの坊間フウケン

賈佩榮。宮中よわつて九月九日蓬餌と食ひる。

酒とのむ。めしとれ人をてせあをむ。
 チヤビエ
 イチナカシ

云。此等事。今もして。まじ。と云ふ。は。と

傳道ハ僕^{ロニ}乃初^{ハツメ}とてふ^ハ時^{トキ}多^タかり。植^{ウヰ}衆^{シュウ}より

中
之
也。

○今梅どあめ。と正月七日辛酉ハあどり墳

とわらふ俗^{ブセツ}も也。古人^{セツ}の死よりしてこれを考^{カニカフ}る

月。日。若。お。の。く。陽。月。陽。の。目。也。此。れ。陽。火。ヤウ 尚。入。陰。也。タトイ

柳ヲサフを食コふとや。又と己の鼻クサ齧モチ。甥チキ生キたキ。七チ夕キ

乃索^{サヘニ}哲。重陽。此菊酒。八。皆。之。各。物。本。所。有。也。是。

と申す。そ自の佳^{カセツ}を祝^{ユヅル}すなり。

七十
冬^{トウジ}至
十一月の中を^{ヤツキ}陽氣
の始てせざる月也。

通曆^{ツウレキ}の云。地皇^{チクサ}氏十一月と以て冬至と云ふ。燭室^{シュツシツ}

ど。今より更なるて改められし唐より始り。

今按^{アシ}どある。この説よりして考^{カガ}さば。正史九月

と拘^{カク}る唐より始り。あつた釈氏智^{シヤクシチ}論^{ロニ}

説^{セツ}甚^{ハナ}き^{タニ}なりて。少もその理^リを^リあ^リれん

人^{キヨセツ}ハ。か^{キヨセツ}く^{キヨセツ}唐^{キヨセツ}より始り。い^{キヨセツ}ん^{キヨセツ}や

唐^{エーヒン}太宗^{エーヒン}の英^{エーヒン}敏^{エーヒン}なり。あ^{エーヒン}ん^{エーヒン}そ^{エーヒン}の^{エーヒン}迷^ミめ^ミん

や。雲^{ウシロク}藤^{テン}漫^{マシ}抄^{セウ}の^{セウ}説^{セツ}より。あ^{セウ}ん^{セウ}と^{セウ}天^{テン}帝^{テイ}釈^{シヤク}太

實^{イッ}説^{セツ}と^{イッ}い^{イッ}く^{イッ}曰^{イッ}大^{ダイ}川^{セン}と^{イッ}て^{イッ}。あ^{イッ}ん^{イッ}と^{イッ}云^{ウン}ふ^{ウン}る^{ウン}

と^{イッ}な^{イッ}り^{イッ}。あ^{イッ}ん^{イッ}と^{イッ}の^{イッ}を^{イッ}あ^{イッ}り^{イッ}と^{イッ}せ^{イッ}ば^{イッ}そ

の^{ワカ}正^{ワカ}史^{ワカ}九^{ワカ}月^{ワカ}者^{ワカ}は^{ワカ}あ^{ワカ}ら^{ワカ}は^{ワカ}て^{ワカ}。あ^{ワカ}ん^{ワカ}の^{ワカ}

あ^{ワカ}ん^{ワカ}と^{ワカ}せ^{ワカ}ま^{ワカ}。他^タの^タ月^{ツキ}は^{ツキ}あ^{ツキ}ら^{ツキ}な^{ツキ}り^{ツキ}て

と^{ツキ}い^{ツキ}ふ^{ツキ}。思^{オモ}ふ^{オモ}る^{オモ}る^{オモ}の^{オモ}あ^{オモ}れ^{オモ}れ^{オモ}ぬ

ひ^ヒと^ヒ天^{テン}帝^{テイ}釈^{シヤク}太^{タイ}そ^{タイ}く^{タイ}人^{ジン}の^{ジン}説^{セツ}と^{ジン}を

ひ^ヒや^ヒい^ヒな^ヒり^ヒ。あ^ヒん^ヒと^ヒ云^{ウン}ふ^{ウン}る^{ウン}

居處門 第四

宮ミヤ
杖二

易繫辭といふ。と古より定むる所なり。は世
の聖人これよりありて文を著し。棟ととし
一宇と下み。ていて風雨を約くわり。も黄帝
のむべえ。黄帝に傳ふ。帝。其尤とある。同て之
室と建。穆天子傳う。崑崙よりやう。黄帝の室
室と見る。白虎通う。黄帝宮室と伝ふ。て室
累と起り。として見よ。宮室ハ黄帝よりい

樓ロウ
八

閣カク
九

サイ
齋
三十

漢宣帝^{カンノセシテイリイキヨ}裔居してとを決^{ケツ}て、け^{コレ}裔^{サイ}の名れ起^{ヲコリ}かり。
 晋人^{シンノタイクハ}和年^{ニシノハイテイ}中^{チンダグン}は。晉廢帝^{ニシノフクシ}陳^{チン}霸^{バン}の殷府君^{インフクン}が代りく
 陳^{イレイチ}入池^{イニチウタン}を所^{イチ}所^{キタ}。殷仲堪^{インチュウカン}は池^{イチ}のいふわめて小舎^{サウシヤ}
 と立て書^{シヨ}とよむ。百姓^{ヨシ}呼て侯^{トクシヨサイ}屯^{トン}裔^{サイ}とん。うと収^{コイヘ}
 てん進^{サイ}ハ裔^{ハジメ}の始^{ハジメ}はうごうくいま進^{ヲコ}より起^{ヲコ}るありん。

廊 三十一

漢武策。穿遊巖廊。とある。唐虞よりい

屋 三十二

淮南子曰。穿築牆茨屋。新張。堯舜の民を
比屋。して封をへ。易。棟宇とは
宇を下。民とあり。文帝の時。乞。振。お。ん。屋
と。ひ。名。ハ。堯。舜。より。い。く。も。あ。り。ま。す。

廚 三十三

帝王世紀。云。帝大興。嫁。娶。乃。礼。と。制。一。犧。牲。と
お。て。い。く。庖。廚。又。傳。い。く。廚。の。始。也。

庫

説文。云。庫。ハ。兵。器。と。蔵。ふ。所。也。帑。ハ。金。帛。と

商鞅。が。書。よ。曰。湯。武。殷。の。湯。王。桀。紂。を。破。て。又

庫。と。築。ふ。又。兵。と。蔵。ひ。大。庭。の。庫。あり。云。庫。乃。始

也。後。世。凡。蔵。物。と。い。ふ。所。皆。之。と。庫。と。い。ふ。

倉

鄭。康。成。周。礼。の。廩。人。と。い。ふ。倉。と。蔵。ふ。所。と

孟子。云。倉。粟。麥。豆。以。食。之。と。い。ふ。倉。と。蔵。ふ。所。と。倉。と。蔵。ふ。所。と

康。公。云。劉。と。い。ふ。倉。と。蔵。ふ。所。と。乃。積。乃。倉。と。い。ふ。

も。も事陶唐のせり始りな〜ん。

亭 廿六

漢の時より〜。秦制十里一

亭とあるは漢の時亭と名は〜も。

秦の号より〜。

臺榭

木雅の觀の四方を〜と云。

山海經に云。沃氏の水に軒轅氏の墓あり。莫

帝の傳に云。帝よりて〜と云。これよりよ

り〜墓榭と云。け〜。

門 戸附

易繫辭に。神農氏没て。黃帝堯舜氏が〜。重

門繫柝以待暴客。皇圖要記に。回。軒轅氏門戸

と云。これ。此は則門戸此制と云。我と云。

宇と下と云。家のな〜。

九 九 獄 今云牢

急先章に云。皋陶獄と云。凡俗通に云。一王

始に獄あり。家の付ハ又臺と云。高にハ姜里と

云。周の六國圖と云。博物志に云。夏の時念室と

高の肘動止と云。周は舊習と云とあるなり。

廁 四十一

礼儀は。隸人温廁とあるなり。とて周の初は

廁の名あり。

溝 四十一

墨子も云。堯の肘土溝ニ入。茅茨不葺。韓詩外

傳も。周は。日氏蔽てむる。黃帝未溝。水溝。とある

なり。則溝。陸乃制。ハ。黃帝。棟宇とあるなり。

とあるなり。

墻 四十二

淮南子も云。舜。屋と化り。墻と築。とあるなり。屋と化。人

を。て。崑穴とあるなり。崑穴とあるなり。崑穴は。室家とある

なり。とあるなり。是。墻の始也。

庭 四十三

列子も曰。黃帝大庭館とあるなり。楊子法言も曰。

鳳鳥。路。とあるなり。鳳鳥。路。とあるなり。鳳鳥。路。とあるなり。

藩籬 四十四

易經大壯の九二も云。羝羊觸藩。復も云。藩ハ籬也。

元帝哀公十二年。吳の人。衛人。此令。其。漢。す。と。
わ。こ。ハ。則。藩。籬。と。も。い。け。て。室。家。と。固。と。る。と。
三代乃制也。

橋 曰十八

堯の時。橋梁と化て以て往來と通と。東。今。原。始。

浮橋 曰十六

春秋後傳。云。周赧王十八年。秦の王。始。て。
浮橋と。河。と。い。は。れ。る。按。ず。り。と。清。河。大。明。の。篇。と。云。
造。舟。為。梁。絲。索。と。云。造。舟。と。い。は。れ。る。舟。と。い。は。れ。て。梁。

と。と。い。は。れ。る。舟。と。い。は。れ。る。板。と。舟。の。と。い。は。れ。る。今。

此浮橋也。事物紀原。下。同。

鳩吻 曰十七

呉。史。厚。く。青。箱。雜。記。と。云。海。と。魚。と。い。は。れ。る。札。尾。と。い。は。れ。る。
鰓。と。い。は。れ。る。浪。を。噴。ハ。則。と。い。は。れ。る。漢。拓。梁。と。い。は。れ。る。

災あり。越。乃。巫。厭。勝。の。状。と。り。建。章。宮。と。起。と。る。

時。鰓。與。此。像。代。と。り。火。災。と。厭。今。世。

乃鰓吻也。

殿 曰十八

周礼^{シウレイ}の校人^{カウジン}良馬^{リヤウバ}を頒^{ワタチ}てこれ養^{ツヤシナ}む事^{ノル}ありと書^{ツカサド}る。
 繋^{エヤウバ}る二系^{ニヤウ}を卑^{サウ}く。二卑^{サウ}と繋^{ケイ}く。六繋^{ロクケイ}と既^キ
 しく。六既^{キカウ}校^{カウ}と名^ナを付^{ツケ}く。是^{スニヤ}既^キと名^ナを付^{ツケ}く。是^{スニヤ}既^キと名^ナを付^{ツケ}く。
 始^{ハジメ}也。又周礼^{シウレイ}の天子^{テンシ}ハ十二周^{カニ}邦國^{ホウコク}ハ六周^{カニ}とあり。
 閑廐^{カンキ}の制^{セイ}ハ則^{ソウ}周^{シウ}よりむとあり。閑^{カン}ハ馬^バ廐^キ也。二周^{ニシウ}
 あり。

東晋^{トウシン}の大將軍^{ダイセウケン}趙固^{チウコ}が垂^シる不^フ乃^ノ三暴^{サンバウ}死^シす。お
 軍^{イクサ}られを起^キしむ事^{ハナタ}あり。郭璞^{クハク}これに於^キて
 云^{イハ}ふにこれを生^{イカ}さんとし。數十人^{シュウジフジン}を以^{モツ}て竿^{サナ}をも

一^{イツ}車^{クルマ}又^{マタ}行^{ユク}る三十里^{サンジュリ}ありて一^{イツ}秋^{アキ}を以^{モツ}て。是^{スニヤ}既^キ
 猿^{サル}のみ。指^{モチ}ゆてるのあま。彼^カ秋^{アキ}鼻^{ハナ}を以^{モツ}て
 るを吸^{スビ}ける。起^キて躍^{ヲド}る。其^{モト}の如^{ゴト}く。將軍^{セウケン}
 志^シ悦^{エツ}べし。今^{イマ}猴^{サル}を以^{モツ}て。既^キの中^{ナカ}に。是^{スニヤ}既^キ
 より起^キまると。獨^{ドク}矣^イ志^シ又^{マタ}出^デたり。事^{コト}言^{イハ}要^{ヨウ}玄^{ゲン}物^{モノ}
 集^{シュ}二^ニより。

行馬^{ハマフセキ} 四十九

三代^{サンダイ}より。一^{イツ}車^{クルマ}又^{マタ}行^{ユク}る三十里^{サンジュリ}ありて一^{イツ}秋^{アキ}を以^{モツ}て。是^{スニヤ}既^キ
 魏^{エイ}より。後^{ノチ}キクハシ。友^{トモ}の如^{ゴト}く。其^{モト}の如^{ゴト}く。是^{スニヤ}既^キ
 りと。又^{マタ}相^{アイ}黨^{ドウ}と名^ナを付^{ツケ}く。三才^{サンサイ}圖^ズ繪^エ

衣服門

第五 布帛采色附

冠カニみ十

三サシ孔レイ圖ツも云。縹布冠カニハ始ハジメて冠カニと云イフ時トキハ冠也カニ。大タイ布

冠カニハ布ヌとてカニ。純ジュン色シキハ則カニ冠カニハ不フ古コよりカニ

もカニけカニれカニ。通典ツウテンも云。上ウエ古コハ毛モウと衣イ。

皮カと帽バウと云。後代カシマシハカニ。多タ獸ジュウの冠カニ角カクと云イフ。

則カニ冠カニ纓エイと云。黃帝クワウテイ始ハジメて布帛フハシと用ヨウ也ナリ。或アル莫ハ

帝カニよりカニハ皮羽カハと用ヨウ也ナリ。六帖ロクテフハカニ。孔子コウシ縹布

冠カニと云イフとあるハカニ。事物紀原モノコトノハジメ古今コキン原ハジメ

う云。黃帝クワウテイハカニ。荀始ケンシ初ハジメて冠カニと云イフ。

冕カニ五十一

説文セツブンハ云。黃帝始ハジメて冕カニと云イフ。世セ也ナリ。云。黃帝

弁カニ五十二

世セ也ナリ。魯昭ロノ云セウコウカニ弁カニと云イフとあり。あカニ。礼記レイキハ

三カニ五カニ大カニハ皮弁ヒビン素ソ纁セキと云イフとあるハカニ。弁カニハ三カニ代カニの制セイ

みカニ。魯昭ロノ云セウコウカニ弁カニと云イフとあり。あカニ。礼記レイキハ

てカニ。制セイと云イフ。魯昭ロノ云セウコウカニ弁カニと云イフとあり。あカニ。

簪 又十三

植寛^{クニハニ}の^{エン}鉄^{テツ}傷^{ロン}う^ウ。禹^ウの^{カニ}衣^{サレ}治^シめ^ム。時^{カニ}簪^{サレ}と^フ墮^ト
 して^{カニ}なり^{サレ}。乃^{カニ}乃^{サレ}と^フあり。簪^{カニ}乃^{サレ}乃^{サレ}と^フあり。
 う^{カニ}乃^{サレ}乃^{サレ}と^フあり。女^メ媧^{カニ}乃^{サレ}女^メ。并^ムと^フなりて^{カニ}髪^{サレ}と^フ災^{カニ}
 一^{カニ}より^{サレ}簪^{サレ}う^ウ。一^{カニ}より^{サレ}冠^{カニ}と^フなり。冠^{カニ}と^フなり。
 一^{カニ}より^{サレ}冠^{カニ}と^フなり。冠^{カニ}と^フなり。冠^{カニ}と^フなり。

纓 又十四

董^{トウ}巴^ハが^ヨ輿^{フク}服^シ志^シう^ウ。と^{カニ}古^コの^モ毛^モと^フ衣^コ。は^ハ衣^ハ
 帽^ハの^ハ後^ハ代^ハの^ハ聖^ハ人^ハ。乃^ナ然^ハの^ハ冠^ハ。冠^ハ乃^ハ乃^ハと^フなり。冠^ハ乃^ハ乃^ハと^フなり。

冠^ハ見^ハ纓^ハと^フなり。淮^ハ南^ハ子^ハの^ハも^ハ又^ハく^ハ乃^ハ少^ハく^ハ志^ハり
 せ^ハり。乃^ハ章^ハの^ハも^ハ。唐^ハ虞^ハの^ハ乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。
 纓^ハ乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。
 乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。

乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。
 乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。
 乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。

乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。乃^ハ乃^ハと^フなり。

よむ。易といふ。黃帝衣裳をきれて天下治
 了。世の中。胡曹衣と化る。宋襄公。胡曹の
 日。伯余始て衣。氏化る。許慎が云ふ。伯余ハ黃帝の世中
 又曰。伯余衣裳氏制と。家語に。孔子の云。黃帝
 始て衣裳と云ふなり。

衾衣 コシイ 又十七。天子の衣

事始る云。黃帝畫と。りて。日月星辰を衣の
 と。象て。天のつら。ある衾衣の稱なり。
 黃帝内傳に云。帝乃。雲龍と代ふ。時。衣冕

と。服と。稱と。して。作て。十二章と。より。一。龍の

十二章の事。詳し。

被 フスマ 又十八

詩。小星。篇に云。抱衾與裯。注に云。衾ハ被也。裯
 俗に云。孔子必有寝衣。長一身有袖。け二。周のハ
 商周のよりなれハ。鄭ら。ハ三代より代り。制ありん
 西。雅記に。魯。魯代被の。ハ。漢。漢。時始て被と名
 けらるなり。

褥 シト子 又十九

史記曰。屠岸賈趙氏と滅と。趙朔が妻まさにな
孕めり。屠岸賈男子とらむ。屠岸賈これと求む。
夫人を袴中に入とあり。その名昭とく。うり
乃ち。食録ふと。と牛肉を食ひ。はは衣冠ふて
袴と作り。袴褶と名づく。今武士乃きり大に
袴褶ハ。乞魏文帝馬とあり。袴也。

魚袋 六十に

實録ふと。二代より韋とひてこれと作り。これを
魚袋と云。魏の時にこれを易て彪と云。唐の

紀海月魚と賜ひ。これより云。飾金銀以
て。みねより云。ハ。飾銀と云。と。みね魚
袋と名づく。

笏 六十に

唐書要ふと。笏ハ周の制也。武王の時。大にこれを
周礼に。後侯を象と用む。大まハ魚頭士ハ竹と用む。
晋宋よりこのし。笏道を。板と云。魏より
後。みねと云。て。笏牙と用む。武徳に。七
月六日。唐の祖。報して。みねとハ象の笏。六

下ハ竹木乃笏を用ゐる。

鞮 六十六

文子云。五乃景と云。鞮係解と云。此れ商の時とてふあり。実録と云。三代よりこれ
しこれあり。これと角鞮と云。前後よりこれ
あ方よりお承。申して帝と云。これと云。
魏文帝乃吳妃と云。始と裁縫してと云。
世と云。干則尿履と云。宋衷と云。干則ハ
其帝の臣也。

履 六十七

てと云。尿履と云。麻皮とては之を履と云。実
録と云。三代ハ皮と云。これと云。

屨 六十八

草履也。唐諫と云。屨草履也。文帝乃臣於則
と云。世と云。於則尿履と云。実
録と云。始と二年。始と蒲と云。履と云。

履 六十九

夫と云。介之推と云。抱と焼死と云。晋と云
と云。切と云。履と云。儒者隠義と云。孔子

檀 セン
 七十 モウセン

附 布帛 七十一

錦 ニシキ
七十二

乾坤又わづげん則又采ハ衣服とやけく
おこゆ。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

官位門 第六

爵 七十六

公侯伯子男。それと爵と云。けみ等ハ堯舜より
く。終合文嘉う云。殷の爵ハ之等。周ハ又
等。成英帝又等と云。り。そ爵ハ始るん。
事お記

官 七十七

崔寔が正論う云。大昊の世。九庖の官と役く。後
終瑞あり。則終と云て友々記と。た他より
そ家郊子う論も也。官と役。初ハ伏羲氏

よりやせく。唐虞よりく官と建つ。惟百。
元は歴代百官と稱と。

品秩 七十八

小魏乃文帝延康元年。陳群と云もの九。九
人。此はと云。少府のく。心従と云つ。と云
よりと云。八。秩の系ハ。魏の陳群より始る。

諸侯 七十九

帝王世紀より云。女嬀の時に。法侯あり。炎
帝の時に。法侯あり。炎帝より始る。

と候。く。凡の民より。く。く。改む。

炎帝の侯と云。土と云。炎帝より始る。

牧 八十

炎帝の監と云。く。方。改む。舜の時に
國の牧侯あり。則に牧乃始る。有虞氏
より始る。

太守 八十一

秦の時に。郡と云。漢景帝より。及て名と太守
と改む。大守の名と云。より始る。

三ノ八十二

書經乃周官也。大昨。大傳。大保と云。茲惟三
公とあり。是云の始也。事物記原

左右相八十三

通典云。成湯始て二相と云。伊尹。仲虺と云。
あれとかい。伊尹と阿衡と。仲虺と太
とす。伊尹也。事物記原。伏羲二おと云。共と云。お
と。相と云。天下と云。おと。おと。
あれとかい。伊尹と阿衡と。仲虺と太

宰相八十回

昔周云家宰と云。佐と云。百工と云。成王
と云。あれとかい。伊尹と阿衡と。仲虺と太
とす。伊尹也。事物記原。伏羲二おと云。共と云。お
と。相と云。天下と云。おと。おと。

大將軍八十八

戦國の時始て大將軍乃号あり。
將軍 八十六
周礼云。天子ハ六軍。一軍ハ一萬二千五百人也。



Handwritten text in vertical columns, likely a transcription or commentary on the adjacent page. The text is written in a cursive script and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. It appears to be organized into several columns, with some characters being more distinct than others.



